

来てもらおうた人に
『ほんまええとこやなあ』って
言うてもらたら
『よかったなあ』って思えるんさ。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、その参詣道のひとつ「熊野古道」は熊野三山(本宮大社・速玉大社・那智大社)へ参拝するための巡礼道です。町内には山中を進む本宮道(横垣峠・風伝峠)と海岸伝いに南下する浜街道(七里御浜)が残されています。

本宮道(横垣峠)

花の窟で浜街道と分かれ、山間を歩く本宮道の最初の峠が神木から阪本へ抜ける横垣峠です。この地方特有の神木流紋岩の美しい石畳が保存されています。

本宮道(風伝峠)

熊野市(旧紀和町)との町境にあり、熊野の海辺と山村を結ぶ要所でした。風伝とは風のよく通る峠を意味しており、初秋から春先にかけては峠から下ってくる朝霧が見事です。

浜街道(七里御浜)

峠越えが続く熊野古道伊勢路の中にあつて唯一、美しい海岸線が続くならかな道です。

今でこそ整備されていますが、当時は橋のなかった志原川の河口などで命を落とした巡礼者もいました。

今後は、体の不自由な方、高齢者、子どもたち、誰もが散策できる浜街道にしようと、「車椅子で歩ける熊野古道」として整備していく予定です。

古道を守る人々

世界遺産に登録され脚光を浴びた「熊野古道」。今では多くの観光客が古道歩きを楽しんでいるこの道も、はじめから整備されていたわけではありません。

御浜町神木から阪本へと通じる横垣峠。この峠は、阪本の人たちが熊野方面へ行くときに使われていた生活道でした。しかし、新しく便利な道路ができてから、20年以上も使われることがなくなり、石畳は土の下に埋もれてしまっていました。熊野古道の代名詞ともなっている横垣峠の見事な石畳は、数十センチも積もった腐葉土をスコップなど手作業で少しずつ掘り起こしたものです。熊野古道保存会では、地元の大切な財産を地域の活性化に生かそうと、手作りの案内標識を立て、草刈、倒木の除去などの道の整備、公衆トイレ清掃をはじめとした活動を続けています。

世界遺産熊野古道はこうした地元の人々の地道な努力で守られています。



風伝峠を流れる朝霧



浜街道



風伝峠

